

そうつと、近づいてみると黒い人影ひとかげが一人桶おけをかついで川と田んぼの間を行ったり来たりして、水を汲くみ入れている様子ようすなんだと。

その働きぶりのめざましいこと、とても普通の人とは思えないほどだったんだと。

見張みはりの者ものが、

「お前さんはだれだい。どうして田んぼに水を入れてくれるんだい。」

と、言ったのだと。

「おれは、藤兵衛とうべえという者だ。いろいろ人間の世話になったから、そのお礼れいにやっているんだ。だが、もう今夜でおしまいだ。明日は、雨が降っから。」

と、どこか姿をかくしてしまっただと。

その男の言ったとおり、ほんとに次の日から、雨がザーザー降って、田んぼの稲は、すっかり助かったんだと。

そのころ、お城の大手門おおもてもんのわきに岡崎おかざきというお医者さまの屋敷やしきがあっただと。